

「国際シンポジウム」開催の報告

新潟大学医歯学系歯学部事務室 内山 良明
(歯学教育・研究推進室)

「国際シンポジウム」を新潟大学大学院医歯学総合研究科「歯学連携ネットワークによる口腔からQOL向上を目指す研究」並びに「先端歯学国際教育研究ネットワーク」の主催で、平成23年2月9日(水)・10日(木)の2日間、市内のホテルにおいて開催しました。

当日は、歯学系国公立大学10大学、並びに米国、ニュージーランド、台湾等の研究者、学生等

延べ80人が参加し、Gregory J. Seymour氏(ニュージーランド・オタゴ大学教授)の「Periodontal Immunology: Forty five years and what have we learnt?」と題した基調講演の他、国内外の研究者の特別講演や大学院生による研究発表があり、また、質疑応答や連携している多くの大学との情報交換も活発に行われ、盛会のうちに終了となりました。



Gregory J. Seymour 氏による基調講演



前田研究科長挨拶



特別講演・研究発表の様子



プロジェクト所属による大学院教育の実質化 平成22年度シンポジウム報告

新潟大学医歯学系歯学部事務室 樋浦由佳
(歯学教育・研究推進室)

平成23年1月29日(土)、新潟大学歯学部講堂にて、大学院教育改革支援プログラム(通称大学院GP)事業の一環として、平成22年度シンポジウムが開催されました。

新潟大学大学院医歯学総合研究科では、「プロジェクト所属による大学院教育の実質化」が平成20年度大学院GPに採択され、3年間にわたり大学院教育の実質化を図ってきており、このシンポジウムはその集大成とも言えるものとなりました。

本シンポジウムでは、日本に比較して早くから実質的な大学院教育をしてきたアメリカとイギリスからそれぞれ1名の講師を招聘し、また、国内でも先進的な取り組みが大学院GPに採択された岡山大学大学院より1名の講師を招聘しました。今回の目的は、これら先進的な取り組みの概要を学ぶと共に、本学の取り組みに対する率直な意見を聞き、討論するための機会を作ることでした。

シンポジウムは本学大学院医歯学総合研究科の魚島勝美教授の司会により進められ、まず魚島教授より開会の挨拶および本学の大学院GP支援による取り組みの概要と本シンポジウムの目的に関する説明がありました。その後、ロンドン大学キングスカレッジの大峽淳講師、ノースカロライナ大学歯学部の中内三男教授、岡山大学大学院医歯薬学総合研究科の窪木拓男教授、本学大学院医歯学総合研究科の齋藤功教授による講演があり、魚島教授と齋藤教授の司会による講演者と出席者を交えた討論がなされました。講演者の先生方からは、本学の取り組みに対する一定の評価が得られ、また貴重なご提案をいただくことができました。

参加者の多くは本学教員および大学院学生でありましたが、このことは本学における大学院教育改革が教員や学生に広く認知され、現状に対する問題意識が共有されていることを示していると思われました。



魚島先生によるシンポジウム概要の説明



シンポジウムの様子



左からキングスカレッジ大峽淳先生、ノースカロライナ大学山内三男先生、岡山大学窪木拓男先生、新潟大学齋藤功先生



討論の様子

平成23年度採択事業

歯学部長 前田健康

1. 役職者について

前田歯学部長が再任されたことに伴い、以下のような人事異動を行いました。

- 学部長 前田健康
- 副学部長 小野和宏
- 副学部長・副学系長 宮崎秀夫
- 副学部長 魚島勝美
- 学部長補佐 大内章嗣
- 歯学科長 齋藤 力
- 口腔生命福祉学科長 鈴木 昭

(○は評議員)

2. 平成23年度概算要求事項の新規採択について

歯学部（大学院医歯学総合研究科・口腔生命科学専攻）が要求していた高度人材育成事業「口腔保健医療に対応した国際イニシアチブ人材育成プログラム（平成23～25年度）」が文部科学省より認められ、本年4月1日より事業が開始されました。本事業により、特任准教授1名、特任助教4名が4月1日付で採用されました。また、本事業の設備備品として、歯科総合診療部に人材育成用デンタルチェア5台が設置されました（平成22年度補正予算による前倒し措置）。さらに、医歯学総合病院より要求していたデンタルチェア23台もあわせて認められ、平成22年度概算要求で措置された10台とともに、歯科総合診療部のデンタルチェアすべて（38台）が更新されることとなりました。この更新により、平成21年度ファントムシミュレーションシステム（4階保存実習室）の更新から始まった歯学部学生用臨床教育実習設備機器の更新は学生技工機を除き、すべて終了したことになります。また、5階補綴実習室に移設したSATVシステム（5台）の更新も昨年度、今年度の学長裁量経費により終了する予定となっています。

3. 若手研究者招聘事業—東アジア首脳会議参加国からの招聘—の採択

日本学術振興会（JSPS）が募集していた「若

手研究者招聘事業—東アジア首脳会議参加国からの招聘—」に歯学部（大学院医歯学総合研究科・口腔生命科学専攻、口腔生命福祉学専攻）が応募していた「口腔保健向上を目指した互惠的研究ネットワーク構築」が採択されました。本年8月から10月にかけて、インドネシア・インドネシア大学、同ガジャマダ大学、タイ・チュラロンコン大学、同タマサート大学、同チェンマイ大学、同コンケン大学より20名の研究者を招聘し、本学教員と共同研究を行うこととなっています（事業担当者：前田健康、魚島勝美、宮崎秀夫、小野和宏、興地隆史、齋藤功、山崎和久、早崎治明）。

4. 留学生交流支援制度（ショートステイ・ショートビジット）プログラムの採択

日本学生支援機構（JASSO）が募集していた留学生交流支援制度（ショートステイ・ショートビジット）プログラムに歯学部が応募していた「国際相互理解による口腔保健医療人材育成プログラム」が採択されました。歯学科および口腔生命福祉学科学学生15名が3名ずつのチームを編成し、台湾・国立陽明大学、タイ・タマサート大学、インドネシア・インドネシア大学、同・ガジャマダ大学、スリランカ・ペラデニア大学に短期海外留学に出かけます（ショートビジット）。また、台湾・国立陽明大学、タイ・タマサート大学、インドネシア・インドネシア大学、同・ガジャマダ大学から12名の学部学生が本学歯学部で短期留学します（ショートステイ）（事業担当者：前田健康、魚島勝美、宮崎秀夫、小野和宏、興地隆史、大内章嗣）。

今年度採択された本事業および「若手研究者招聘事業」、平成21年度採択事業「組織的な若手研究者等海外派遣プログラム」、平成22年度採択事業「頭脳循環を活性化させる若手研究者海外派遣プログラム」により、学部学生、大学院学生、ポスドク、若手研究者に至る一連の国際化対応教育プログラムが構築されたこととなります。